



安全で安心して働ける冬期体制を構築することを強く要請！

地本は11月18日に申33号2020年度冬期の取り組みについて団体交渉を行いました。昨年、一昨年と小雪のため検証ができませんでしたが、架線凍結等新たな課題も浮き彫りとなりました。社員が安全・安心して働ける労働環境を作り出すことを強く訴えました。

1. 簡易型乗用除雪機械「とらん丸」は車両センター構内で降雪初期の除雪体制に活用し、訓練及び除雪能力の検証を行うこと。

回答：簡易型乗用除雪機械は、車両センター・運輸区構内等での除雪など、必要と認められる除雪作業に活用することを目的としている。

(組合) 導入から3年経つが除雪能力が未知数である。雪がある所で能力を確かめてみては？

(会社) 本線でなくても基地線等を使って実際の除雪能力を確かめたい。とらん丸があるために訓練を行っている状態は考えていかななくてはならない。

2. 留置車両の起動確認は実施する日に該当する乗務点呼で作業指示を行い、日別の超勤として整理すること。

回答：今年度の起動確認については、前日の気象状況によりその実施可否を決定し、乗務点呼での作業指示を行うことを基本とする。

(会社) センター試験など起動確認が予定されている時でも当日の乗務点呼時に指示する。退勤時に作業報告書を提出してもらう。

起動確認実施を開始した2年前から組合が主張してきた、起動確認を実施する日のみ変行路として指示し、勤務処理を行うことを確認

4. 架線凍結対策における臨時単行機関車の運用方針を踏まえ、毎日運行できる要員体制を長岡運輸区に構築すること。

回答：架線凍結対策として、臨時単行機関車の運転による効果は限定的なものと考えており、状況を踏まえ実施していく考えである。

(会社) 単行機関車は霜切りとして架線の氷を削るイメージより、安全に運行できるかの確認列車である。

(組合) 安全確認というなら尚の事重要である。提案にあった信越線、上越線双方に運転させる考えに変わりはないか。

(会社) 変わりはない。車両と乗務員の手配ができれば双方に運用させたい。

(組合) そうであるならば信越線、上越線に運転するための要員を確保するべきである。休勤前提の運用は乗務員にかかる負担が大きい。

6. 越後湯沢駅の冬期要員を+3とし、冬期の営業体制を保障すること。

回答：提案のとおりで考えている。

(組合) GoToキャンペーンの影響によりお客さまの移動が増えている。現在の状況を見て冬期要員は+1で可能なのか。

(会社) インバウンドは期待できないので可能と考えている。必要であれば外部委託や支社からの応援で対応する。

*そのほかの項目については各事務所に送信した交渉メモを参考して下さい。